



芝桜フェスタ期間中には、旧大森町「シバザクラ」、旧東由利町「黄桜」、旧雄物川町「ご利益通り」と、国道107号沿いの観光スポットを訪ね歩くスタンプラリーも企画された

三千年目の情熱

美しく咲き誇る花を眺めて、心が和まない人はいない。

旧大森町（現横手市大森町）では、5月に大森公園を会場にして芝桜フェスタが催される。公園内のスキー場の緩やかな斜面に色違いのシバザクラの花を使い分けて描かれた「地上絵」は、あたかもふかふかの手織りじゅうたんのようでもある。

人の心を和ませる花ではあるけれども、舞台裏で奮闘する人たちの苦勞は少なくないようだ。シバザクラは、害虫やタヌキによる被害もあとを絶たず、花を枯れさせてしまう雑草の繁殖は人海戦術で食い止めるしか手がない。今年のフェスタは、「根切り虫」の被害で補植を強いられた部分があり、「地上絵」の一部を「未完成」のまま公開せざるを得なかった。

それでも、今年のフェスタ終了後にはさらに植栽面積を増やし、来年は1割以上サイズアップしたシバザクラのじゅうたんになるというから、地元の人たちのシバザクラにかける熱意は、並々ならぬものがある。

芝桜フェスタ実行委員会のメンバーにも名を連ねる平鹿中央商工会では、岩手県大船渡市を起点にして横手市を経て由利本荘市に至る国道107号ルートの歴史にも着目している。夏になると、この107号号を通過して由利本荘周辺の海水浴場に向かう岩手ナンバーの車を多く見かける。海水浴に適した海岸が少ない岩手の人たちは、好んで秋田の海を目指してくるようなのだ。

一方、大船渡や北上市の縄文晩期の遺跡からは、矢じりや土器の接着剤として使われたアスファルトが出土している、これは秋田の油田で産出したものが運び込まれたのではという説がある。それが事実だとすれば、107号ルートの東西の交流は三千年の長きに及ぶものとなる。壮大な歴史ロマンだ。

そんな歴史的背景を励みに、平鹿中央商工会と国道107号の沿線商工会は、連携して新たな地域活性化を始めている。とかく元気がないと言われがちな秋田だが、とっこい「現場」はもう動き出しているのだ。